

令和5年度 第1回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：令和5年5月22日（月）午後2時00分～午後4時30分

開催場所：岡崎市役所 東庁舎6階 601

出席委員：6名

瀬口哲夫委員（委員長）・三浦正幸委員・中井均委員・丸山宏委員

奥田敏春委員・堀江登志実委員

欠席委員：加藤安信委員（副委員長）

説明のために出席した事務局職員：7名

社会教育課：田中典子課長・鈴木幸宏副課長・菅沼貴之岡崎城跡係係長・

久野千秋主事・平山優主事

公園緑地課：津呂幸治計画係長、森本涼太技術員

傍聴者：なし

次第

委員長・副委員長の選任

委員の互選により委員長は瀬口委員に、副委員長は加藤委員に決定した。

議題

- (1) 令和4年度事業報告について
- (2) 令和5年度事業計画について
- (3) さくらの樹勢回復について

議事内容

(1) 令和4年度事業報告について

事務局：配布資料1に基づき説明

【質疑応答】

委員：松の伐採について、年代をピン27本で特定したとあるが、樹皮の部分は計算したのか。

委員：樹皮は計算しない。

委員：樹皮を入れてプラス5年とかはしないのか。

委員：明治16年とあるが、そんなに正確ではない。5年くらいは、ずれる。形成層と樹皮があるので。

委員：木によってプラスアルファの計算はしないのか。

委員：それはない。切る場所によってだいぶ違うので数年の差はある。だからざっと150年と考えた方がいい。それと、明治に植えられたから切って

もいいと言っていたがそれは違う。ここを伐採したのは石垣をき損する木であるからで、近代に植栽された木は城郭景観を整えているわけだから、やはり石垣が危ないから切るのが正しい。石垣から離れていれば切る必要はない。

事務局：帯曲輪の石垣上部の松というイメージです。

委員：報告書は別に作るのか。

事務局：発掘調査の報告書はこれとは別で、今回の資料は「岡崎城だより」用に作成した。

委員：写真だけ載せて終わりなのか。資料の作成は考えていないのか。完成した図面の詳細な報告はあるのか。普通文化財だと報告書を作成するが、市の史跡だからどこまでするのかわからない。将来的に崩れるかわからないが、その時の資料として。

事務局：資料の必要性は承知しているが、まだできていない。

委員：完成版を作るということか。

事務局：そうです。今後作業を進めていく予定。記録保存として残す。

(2) 令和5年度事業計画について

事務局：配布資料2に基づき説明

【質疑応答】

委員：石垣の樹木伐採は、発掘と同時にやるのか。あらかじめ切っておかないとできないのではないか。早めにできないか。

事務局：担当と調整している。早くやりたいとは思っている。調査に支障が全くないとは言えないが、発掘はできると考えている。

委員：クスは成長が早く、後で切ろうと思っても復活するので早めたほうがよい。また、龍城堀の水深は。

事務局：40cmくらい。

委員：崩落した石垣を、そのまま放置はまずいと思う。

事務局：現在は崩落した石材は撤去し、南切通しと同様に大型土のうで押さえている。

委員：塩ビ管があるが、雨水排水はしているのか。

事務局：塩ビ管で、南側の通路面から雨水の排水はしている。

委員：岡崎城の城内の雨水排水は、すべて堀に放り込んでいるのか。

事務局：南側道路については、堀に入っている。本丸方面は水路がないので石垣上部に溜まって自然と流れている。

委員：雨水排水について検討しておくべき。

事務局：検討課題だと思っているが動き出せていない状況。なんとかしたいがすぐには動けない。

- 委員：雨水排水計画を立ててほしい。早急には動けないと思うが。雨の日に、どこがどうなっているかチェックしてほしい。
- 事務局：社会教育課だけでなく、公園でもあるので公園管理者と調整しながら進めていく。
- 委員：坂谷曲輪の発掘調査について、平面的にどこにトレンチを入れるかなどは次回の委員会の時に図で示してもらえるか。
- 事務局：その予定である。
- 委員：龍城堀の水位は何によって維持しているのか。
- 事務局：乙川（菅生川）の水をポンプで吸い上げている。排水については自然に落ち込むようになっている。
- 委員：どれくらい水を入れているのか。水を入れる量と、堀の浄化の関係はどのようになっているのか。水がきれいな状態で維持されているのか。
- 委員：風呂谷曲輪の下あたりから水が湧き出ている。前に水を抜いた時、あそこから大量の水が出て、いくら抜いてもお堀の水が抜けきれなかった関係もあるのではないかと思う。実際に乙川の水を入れているのは知らなかった。
- 事務局：乙川の水です。ポンプでくみ上げている。
- 委員：次回また教えてほしい。堀の水の維持の仕方、どれくらいくみ上げて排水するかと浄化の状況。
- 委員：アオコは出るのか。夏場、藻みたな。
- 事務局：藻はある。龍城堀はヘドロがひどい状況。水深を下げるとヘドロのにおいがひどい。
- 委員：浚渫はしたことはあるのか。
- 事務局：平成12年に開削して、下にたたきを打つ工事をして以降やったという事は聞いていない。
- 委員：セメントを打っているということか。
- 事務局：はい。
- 委員：セメント打って、そこからヘドロが溜まっているならとればいいのか。
- 事務局：膨大な経費が掛かるので、そこは財政部局と相談になる。あとはどの部署がやるかもある。公園管理者・観光担当と相談になる。
- 委員：ヘドロがあるなら、いくら新しい水を入れてもきれいになりにくい。その辺も合わせて情報が欲しい。
- 委員：龍城堀ではなくて、旧市史だと本丸堀となっている。文化財のほうだけでも江戸時代ないしは旧市史の表現に従って呼称を統一したほうがいい。龍城堀は適当ではない。

- 委員：前担当者に堀の名称を調べてもらったことがあって、江戸時代の文献にはないという事が分かった。では、本丸堀はいつ付けた名称か。
- 委員：旧市史に則っていうと、旧市史は本丸堀。
- 委員：出典を明らかにしておいたほうがよい。本丸堀にするなら、大正の市史に基づいて、この名称にするかどうか決めた方がよい。堀の名称ってないところが多い。勝手につけてもいいのか。呼称を統一するというご意見があったので、「龍城堀」もいつ付けられたかも調べておいてほしい。龍城神社ができた時か。
- 委員：市民の中では定着している。龍城神社の前だから龍城堀。
- 委員：市史より早いのか。龍城神社っていつからか。
- 委員：幕末くらいから明治。
- 委員：市史より早い。市史は大正でしょう。
- 委員：拠っている文献がおそらく江戸時代だから。
- 委員：その辺は十分調べて下さい。

(3) さくらの樹勢回復について

事務局：植栽管理計画・写真に基づき説明

【質疑応答】

- 委員：普段のさくらの把握はどうしているのか。
- 事務局：普段は、樹木医に見てもらっている。
- 委員：どのような管理をしているのか。これだけ傷んでいる状況で。普通は花が咲いたらお礼肥えをすることもある。弘前城のソメイヨシノは100年以上経っているものもある。普段花が終わったらどのような管理をしているのか。
- 事務局：日常管理ということか。
- 委員：日常管理として、それぞれ樹木があるが、弱ってきたらどのような管理を公園担当部局としているのか。
- 事務局：剪定の際に目視で確認して、弱っているところは処置している。
- 委員：さくらに対してちゃんと管理していないのではないか。今は弱ってきたから土壌回復するが、日常的管理がなされていないからこの状況になっている。これは他の城跡、例えば彦根城でもそうだが、さくらについては日常的管理についてしっかりやっていない。さくらは可哀想で、4月に花が咲く。傷ついている。京都の円山公園でも9割おかしい。それはお礼肥えを全くやっていない。そのような管理計画を立てられなかったら同じことが起こる。穴を掘って土壌改良することのだが、有効性のチェックもいる。普通さくらが弱ってくるのは、水が溜まって先枯れする。穴を掘ってバケツいっぱい水持ってきてかけてそれがすーっと引く

ならその土壌は良いと思うが。これはかなりひどいものもあるし、さくらは切つてはいけないというが、弘前でも切っている。枝が伸びてそれを生かすような。一度、弘前城に研修されてはどうか。

事務局：4年をひとサイクルで施肥を順番に入れて、4年間をモニタリングする。

委員：毎年やらないといけない。

事務局：特に弱い樹種、施肥が必要なものに関しては4年をひとサイクルにしている。

委員：ダメなさくらは切らないといけないが、ソメイヨシノはてんぐ巣病が入るから。神代杉、紅桜に品種を変えている。背丈は大きくなならないが。そのようなことも検討されてはどうか。このような管理をしているのは先が見えている。寂しい感じがする。弘前に行ってください。

委員：弘前の場合は、さくらの花がきれいに咲くように剪定している。毎年さくらは咲くが「さくらを切る馬鹿」と言うように、切らないようにしている。弘前はさくらの開花を重要にしている。そのためには木が健康でなければならないので、毎年手を入れている。木が弱ってから、死にそうになってから手術しても遅い。その辺をどうしたらいいかももう少し考えてください。

事務局：今後は植え替えを考えたいので、さくらの管理計画を。

委員：史跡の中で植え替えは難しいでしょう。長寿命化していただいて、土を掘らないようにしてもらわないと困る。植え替えも簡単に言えない。

委員：植え替えも、隣の木と枝が重ならないように、最低10メートルあけないといけない。最初はさみしいからいっぱい植えるが、後から切ることができないでしょう。さくらを植えるにしてもここだと史跡だから高植えにしないとけない。そのような植栽管理計画ができていない。弘前は、根の方に補給している。腐葉土もたっぷりやっている。枯れたから植え替える、それでは同じこと。さくらだけではなく、ほかの木も同じだが、特にさくらはお礼肥えしてやらないと来年の花が少なくなる。さくらに関するプロに、出張費出してもらって二人で行って教えてもらってください。何も知らないでやっていくより、現場で教えてもらった方が早い。植栽管理計画については、他からの知恵を借りるようなことも考えてほしい。

委員：植栽管理計画でも「植え替えを検討する」とあるが、植え替えを検討するという事が、そんな簡単なことなのか。今の状態で何とかしていつてもらわないと。ダメだから抜いて新しいものに変えるとなったときに、先ほど教育委員会から立会をするとあったように、これくらいの穴でも立会をする文化財に対しては、どれくらいの面積をとって、どれくらい

の木を今度新たに入れるのか。うまく寿命を長らえさせることを考えないといけない。枯れたら次また同じところに植えるのか、その程度で済ましてしまうのはよろしくないと思う。いかに今の木を管理して長らく保つという事を考えないと、ダメだから植え替えるになると、文化財として調査をするのか。これは計画だが、私としては本当に植え替えをしていいのか。ダメだったらそこは何も植えないで行くべきなのかもしれない。そこまで考えていかないと、ダメだから植え替えますという単純な発想では文化財は保存できないと思う。

事務局：基本的には、植え替えは私どもとしては考えていない。

委員：国の史跡だといったん切った木はそこには植えない。

事務局：新しく植えるのも現状変更をとまなうことは承知をしている。ただ、さくらの名所100選に選ばれているところもあり、史跡の保存に影響のない範囲で協力しないとイケないと思う。岡崎市としての大方針があるので、ご理解いただきたい。積極的に植え替えをしていきたいという思いは文化財部局としてない。

委員：植え替えする場合は、その場所が景観的に「ここはさくらがあってほしい」、植える場合も穴を掘るのではなく、上に土を盛る高植えというやり方がある。

事務局：手法などは確認する。伊賀川沿いなどは伊賀川改修事業でだいぶ改変されているので川沿いなど史跡に影響のない範囲で

委員：三河はカワヅザクラか？ソメイヨシノではなくて？

委員：カワヅザクラはそのあたりに植わっている。ただそれはみんな岡崎のさくらと思っていない。

事務局：植栽管理計画は令和元年に作られたもので、「植え替えも」という形なので、今後社会教育課と内容を詰めていく。

委員：50センチくらい掘るとあったが、土壌改良は本当に効果があるのか。リスクを冒してまでやるというか、実績はどこかであるのか。

事務局：市内でもやっている。ただ、人間と一緒に手術して治るかといわれると、そうでもなく、個体差もあるし、これだけやったら絶対というのは言えない。

委員：普通は液を注入するものを刺している。樹木に直接でなく、根の周りに。

事務局：さくらの場合だと、本当の下の方の根にやらないと、表面だけだと逆に草が生える。

委員：史跡とバッティングするところがあると思うが。

事務局：それしかできないところはそれで検討する。

委員：掘らないでもできる方法はないのか。

- 委員：この土壌改良は、水が抜けるように、あるいは空気が入って根が呼吸できるようにというメリットはあるが、普段からちゃんと管理できていないから。
- 事務局：今年度は、これだけで出しているが、本丸、二の丸にも同様の問題が出てきている。令和元年度に作成した植栽管理計画は「延命化を図る」となっているので、延命を図る形で協力を考えている。
- 委員：さくらの木は接ぎ木はできないのか。
- 委員：それは無理。昔はその職人がいたが今はいない。
- 委員：土をいじらないとだめということか。
- 委員：少なくとも人が侵入しないよう、踏圧で固まると樹木は息ができないから、囲ってやらないといけない。そこに腐葉土や砂利を置いて人が侵入できないようにしておかないと踏圧で枯れる。そこまで検討していけないと。一本一本どうするかやらないと。全部でなくても、代表的な木は管理計画立てないと、同じこと。
- 委員：とりあえず、弘前城に行ってください。
- 事務局：来年以降の延命措置をどうしていくか、公園の担当部局と調整をしているので、次回以降議題に上がる予定である。
- 委員：過去の延命措置は行われているはず。その成果を出してもらいたい。10年前にやった効果は言えるはず。
- 事務局：近々だと乙川です。
- 委員：具体的に資料として出してほしい。たまたまその木は死んでしまったのか、大半は効果があるのか、客観的なデータで示してくれると安心である。
- 委員：公園緑地で努力しているという姿勢を見せてほしい。
- 事務局：公園緑地と調整していく必要がある。
- 委員：調整でなく、責任の所在である。このさくらは公園緑地でやるのか、文化財でやるのか。管理者がしっかりしていないとどっちつかずになる。それも含めて検討してほしい。